

周波数ひっ迫対策技術試験事務 平成27年度継続評価結果

案件名	実施期間	評価会での主なコメント	評価点
新たな携帯電話システムの導入に関する技術的条件の検討	H26～H28	<ul style="list-style-type: none"> ・目標に沿った成果が得られている。但し、「緊急公助システム」については基本的な実証で有り、次年度につながっているとも思えない。 ・4Gモバイル用周波数確保はきわめて重要であることから、外国の機器の性能調査を含めて十分データを集める必要がある。 ・LTE-Advanced導入の際の周波数区分と優先順位や地球局設置の各地区の評価などどこまでデータが得られたのか明確に示すこと。 	4.1
狭域通信システム(DSRC)の高度化技術に関する検討	H25～H27	<ul style="list-style-type: none"> ・当初計画に対して、必要な事項を達成したと認められる。但し、複数ある新方式に対してどの方式が最も優れているかという評価を明確に示す必要がある。 ・新しい通信方式による路車間・車車間などの強調システム性能検証を目指しており、適切である。 ・過去2年間に亘って、詳細な検討が進められて来っており、達成された成果も当初の目標を満足するものである。また今後の計画も実験を含めこれまで得られた知見を基に計画されている。しかし、第五世代移動通信や無線LANの急速な進歩を考えると、DSRC方式で車車間、路車間通信でどの程度需要を経済的に満足できるのか、世界の動向を良く見ながら進める必要がある。 	4.0
5GHz帯無線LANシステムの使用周波数帯の拡張に伴う周波数有効利用に関する技術的条件の検討	H26～H27	<ul style="list-style-type: none"> ・他システムとの共用のための必須技術であるDFSの基本特性が明らかにされており、目標を概ね達成していると考ええる。 ・無線LANの利用形態から、海外との統一的な技術基準作りが必要であり、そのための方策の検討を十分行う必要がある。 ・WRC-19での5GHz帯の新たな周波数分配の実現に向けて、検討結果が技術的要件のたたき台となるようにまとめていただきたい。 	3.9
公共分野におけるブロードバンドシステムの利用拡大のための技術的条件に関する調査検討	H26～H29	<ul style="list-style-type: none"> ・検討課題は明確であり、十分な技術データを収集する必要がある。共同利用については、防災行政無線、急速な普及が見込まれるドローンなどの利用形態も十分考慮した検討が必要であろう。 ・技術基準の策定に向けたロードマップの作成は有益で、今後の検討が大いに期待される。なお、技術基準の策定に資するデータのとりまとめと分析においては、1カ所では無く複数の異なる港湾地形での実験など、実際の運用環境を考慮してまとめていただきたい。 ・短期間に多くの項目を検討し、項目毎にきちんとまとめがなされていることから、初年度としては十分に目標を達成していると判断される。 	4.2
デジタルコミュニティ放送の周波数共用等に関する技術的条件の検討	H26～H27	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルコミュニティ放送の地域的な特殊性を考慮した技術課題を検討することの意義は理解でき、目標は概ね達成している。 ・デジタルコミュニティ放送の周波数配置案の検討、SFNを実現するための放送事業用固定局の置局検討、電波伝搬状況の調査について、当初計画していた内容をほぼ達成したものと認める。 ・東日本大震災の経験から早期の技術基準の策定が期待されているだけに、しっかりとした検討と技術基準のベースとなる取りまとめが望まれる。 	4.0
衛星システムの周波数共用技術に関する調査検討	H26～H27	<ul style="list-style-type: none"> ・準天頂衛星システムや2GHz帯衛星通信システムと地上系既存無線局との周波数共用技術の検討目標は妥当であり、達成度もほぼ計画どおりであろう。 ・1.2GHz帯を用いた準天頂衛星システム及び2GHz帯衛星通信システムの地上システムとの干渉条件の明確化、共用条件の導出に向けて今年度は着実の進んでいると認められる。 ・本技術試験事務は有益と考えられるが、ノッチフィルタとSAWフィルタの組み合わせを今後どのように取り扱っていくのか明らかにする必要があろう。 	3.7
屋内環境での電波雑音に関する調査	H24～H27	<ul style="list-style-type: none"> ・室内環境での新たな信号源の出現により電波雑音に関する検討する意義はあり妥当なものであり、計画どおりの達成度が得られていると考えられる。 ・電波雑音データ分析によるWGN,IN,SCN特性を考慮した信頼性の高い電波雑音のモデリングを今後の実施計画で検討してほしい。 ・得られた成果の有益性は認めるが、できれば国外の成果との比較を行うことが必要であろう。 	3.6